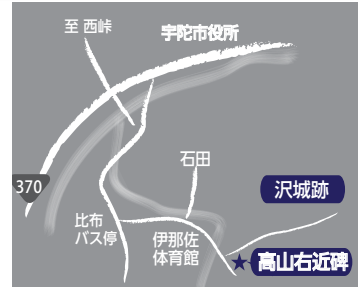


沢城跡と高山右近碑 (榛原澤・大貝)



沢城は、中世に「宇陀三将」のひとり、沢氏が築いた城です。沢氏は元々、興福寺の莊園を管理する莊官でしたが、やがて武士化し、宇陀を代表する勢力となり、南北朝時代には、伊勢国司・北畠氏のもとで活躍しました。

戦国時代の1560年～1568年頃までは、高山飛騨守図書(ずしよ)がこの城の城主となりました。のちにキリシタン大名として知られる息子の高山右近は、城内の教会で洗礼を受けました。

後に右近は、織田信長や豊臣秀吉の下で活躍しますが、徳川家康のキリスト教禁止令によって、1614年にフィリピンのマニラに追放され、日本に帰ることもなく異国の地で亡くなってしまいました。

キリシタン大名の右近は、当時、人徳の人として知られ、平成28年1月には、「地位を捨てて信仰を貫いた殉教者である」として、ローマ法王庁(バチカン)から「福者(ふくしゃ)」の認定を受けました。

※「福者」とは、カトリック教会において、死後、その徳と聖性を認められた信者に与えられる称号

▼ 沢城跡

伊那佐山の南東、標高 524 m の山頂に造られた山城で、山上には、本丸、出丸などと呼ばれる遺構が残っています。

▶ 高山右近受洗碑

石碑に刻まれている「高山右近」の文字は、右近本人の書から写したものです。



みんなでまちの未来を考えました!

宇陀市子ども議会を開催



7月27日、子ども議会を開催しました。第3回となる今回も市内各小学校6年生の代表12名が子ども議員となり、学級や自分たちで考えてきた「宇陀市がこうなったらいいなあ」「宇陀市のここが課題」と思っていることを市長はじめ市行政に投げかけてきました。

市長は閉会の挨拶で、「子ども議会にあたって、みなさんが、これからの明るい未来のために何が必要か一生懸命考えてくれたことを大変頼もしく思えた。地域の活性化や地域資源の振興、また学校生活で感じたことなど、いただいた意見はどれも非常に大切なもの。宇陀市の将来を自分たちが真剣に考えるそのひたむきな思いが、宇陀市を希望あふれるまちにすることができるものであると確信している。みなさんには今日この舞台で不安や緊張に負けず発言されたように、この先もいろんな場面で自分の意見を堂々と述べるような努力を続けていってほしい。」と述べ、教育長は講評として、「これからの教育では、自分たちに何ができるのかを自ら考え、実践することが求められている。そして大切なことは、どれだけ多くのことをしたのかではなく、いかに心を込めてそれができたのかということ。」と子どもたちの未来へエールを送りました。



この模様は、うだチャンで全編放送されるほか、YouTube「宇陀市ホットニュース 子ども議会」でも閲覧することができます。ご覧ください。

■うだチャン放送日
9月10日(日)
①午前10時～ ②午後6時～